

## ご挨拶

この度、私事ではありますが、3月末日にて退職させていただくことになりました。紙面にて大変恐縮ですが、ご報告させていただきます。

1月のマネジメント情報に山下先生の方で記載があったと思いますが、新規就農を目指すため、4月から別海町酪農研修牧場にて研修をスタートすることになりました。

この会社に入って丸3年となりました。はじめは、男の同期が2人いて自分よりも体格や身長の大い人ばかりで、自分はこの会社でやっていけるのかと心が折れそうになる日々でしたが、何とかしがついて、こんな自分でも少しは繁殖検診の担当を持たせていただいて、皆さんにご迷惑をおかけしながらも、頑張ることができました。今では心からこの会社に入ってよかったと思っています。そして、特に同期の2人、そして、先輩の獣医師の方々には感謝したいです。

この会社に入って、獣医業をしていく上で、酪農の面白さをたくさん知ることができました。また、酪農と一言でいえて、全ての作業や飼い方、環境の一つ一つがこうも違うのか！と、十人十色です。大変失礼かもしれませんが、自分だったらこうしたい、ああしたいがたくさん出てきました。しかし、自分の思う100%を押し付けることなんて出来ませんし、忙しい中で作業を追加させるのは難しいことが多々ありながら、自分に出来ることは少なく、その忙しさを体験したことのない私が作業を押し付けるのは違うなとモヤモヤしていました。それなら自分でやってみたいと思ったのが一つの理由です。

もう一つが酪農業自体、やりたい人がどんなタイミングでも始められやすい環境を整えられたらいいのと思っています(これは政治家にでもならない限り厳しそうですが)。動くお金が大きすぎるので現実的ではないですが、好きな人(出来る人)が酪農経営しやすい環境になればいいのと思っています。実際問題、自分もやりたいと思ったところで、始められるものではなかったです。新規就農の仕方も様々ありますが、第三者継承だったり、私のように研修牧場のような施設を介してだったり、自分も調べてみて初めて知ったことばかりでしたが、結局タイミングだったり人脈が物を言うのだなと分かりました。

ざっくりと以上2つの理由(他にもたくさんありますが)と、残りの人生悔いのないようにチャレンジしたいと思い、新規就農を目指して、4月から別海町酪農研修牧場で働くことにしました。今回新規就農を目指すということを知って、たくさんのアドバイスや意見をいただき、ありがとうございました。今の酪農情勢の中、わざわざ新規就農をして借金を抱えるなんて!獣医師をやっていた方が安泰だ!などなど様々な意見があると思いますが、夢に向かって頑張りたいと思います。そして、様々なタイミングが重なり、残った獣医師の方々にはご迷惑をおかけすることになって申し訳ございません。末筆ではございますが、皆さまのご健康とご発展を心からお祈り申し上げます。

追伸、マネジメント情報は今後も掲載させていただく予定なので、宜しくお願ひ致します。

2022年3月31日 村上(小方) 可奈江

(株)トータルハードマネージメントサービス社  
に復帰して・・・

2011年に退社してから11年が経ちました。  
再びお世話になります。

長崎の離島「壱岐島」で、和牛のことを知ることができた7年半は、私にとって新鮮で、興味深いものでした。とにかく離島は何もかも小さく、北海道でも路肩から幾度か転落した実績のある私には、石垣で囲まれた1車線道路は・・・自分がガリバーになった感じでした。与えられたプリウスはたった半年で見るも無残な顔に変形していました。そんな中、子牛の腸捻転や第四胃捻転の開腹手術や尿石の手術などを覚えました。離乳用の鼻カンを輸入して流行らせることは意外に上手くいきました。一般診療はほとんどが子牛の下痢や呼吸器病でしたが、たいていは何か治療すると一発で治りました（臍帯炎がらみは長引きましたが）。決め手は「早期発見」だと思います。実際、農場に入って見回っても、どの牛が調子悪いのか見分けがつかません。「どの牛？」と聞くと、すぐそばにいる牛を指さして、「この牛」とおっしゃる。「元気だけど、咳をする。」とか、「元気だけど糞がゆるい。」とか、、このレベルだと、何を注射しても治るのです。



ところで、最近動物へ投与する抗生剤についてとても敏感になっています（薬物の適正使用：特に耐性菌対策）。しかしながら、診療していて、昨日までは元気だったのに、今日になってダメになっている症例もあります（特に黒毛は弱い）。ですから、どうしても一歩先に行く重い治療をしがちです。要するに必ずと言ってよいほど抗生剤を使用します。私はこの4年間酪農学園大学の診療チームで他の先生方の治療も見てきました。比較的抗生剤を使わない方が多かったけど、悪化した例はなかったように思います。このことから、とにかく「早期発見&早期治療」で、事が軽く済むことは明らかです。

皆様と共に、一緒に牛の衛生に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

思えば別海を離れるときにベッドに臥せていた母は、見舞う度いつも「仕事をしなさい」と語ってくれました。その言葉を胸に、もう一度この地で心を新たに、今まで培ってきたものを全て吐出すべく仕事をしたいと思います。

追：酪農学園大学での仕事の引継ぎに約1月要します。申し訳ございませんが、本格始動は5月からとなります。

重ねましてどうぞよろしくお願い申し上げます。

2022年4月 阿部紀次